



# 一般質問

令和3年第2回定例会の一般質問は6月16日に行われ、3人の議員が登壇し、村政全般にわたり質問がなされました。

質問項目は右のとおりとなります。項目別の内容につきましては村ホームページの一般質問通告事項一覧をご覧ください。ここでは、やり取りの一部を抜粋して紹介いたします。詳細な内容は会議録の公表をお待ちください。

やまざき さちこ 議員 所属：厚生文教委員会  
山崎 幸子

- 「中学校の制服」について
- 「幼稚園の給食」について

まつむら ひろし 議員 所属：厚生文教委員会  
松村 広志

- ヤングケアラー支援について
- SDGsの取り組みについて

はやし しょうこ 議員 所属：総務経済委員会  
林 昌子

- 防災対策について



## 「中学校の制服」について



やまざき さちこ 議員  
山崎 幸子

**質問** 特別な事情があつて、規定の制服を着ることが難しい生徒への対応は。

**答弁** (教育部長) 数年前にスカートをはくことに抵抗がある生徒に対し、相談の結果、儀式以外の時はジャージで過ごすことを認めたと例がある。

**質問** 特定の子だけでなく、全員が自由に選べる制服が理想だと思つ。制服のあり方を改めて考える場を設ける考えはないか。

**答弁** (教育長) 美浦中では生徒会総会で話し合い、生徒心得の中の制服の部分を改正した例がある。生徒が自ら考

える体制はできてくるので、今後は生徒会の話し合いの場で、LGBTの生徒に対する配慮の議題を教職員から投げかけ、特別な配慮が必要な生徒を思いやることも学び、制服のあり方について考える場にしていきたい。

**質問** 文科省が2015年にLGBTの子どもについて配慮を求める通知を各学校に出したが、本村教育委員会としてはどのような対応をしているのか。

**答弁** (教育長) 生徒の側から学校に相談があつた場合、教職員の間で共有し対応することは欠かせない。LGBTの生徒に対する対応について、今回の質問を契機に改めて学校に指導していきたい。

## ヤングケアラー支援について



まつむら ひろし  
**松村 広志**  
 議員

**質問** 大人に代わり家族の世話や介護をする18歳未満の子どもたちを「ヤングケアラー」という。全国の実態調査によれば、公立中学2年生の5.7%（約17人中1人）に上る。日々のケアが重い責任や負担となり、子どもたちの教育や生活に大きな影響を与えている。本村の支援を問う。

**答弁**（保健福祉部長）「ヤングケアラー」の社会的認知度は低く、支援が必要な子どもにも気付くことが難しいとされる。支援や対策を進めていくため、中学生や周囲に認知度の向上・理解を図り、早期発見に向け関係機関との連携を進めたい。

## SDGsの取り組みについて

**質問** コロナ禍における学校教育とその在り方が問われている。創造性や豊かな心を育てるため、SDGsの取り組み、ESD（持続可能な開発のための教育）の積極的な推進は必要ではないか。本村の意向を問う。



**答弁**（教育部長）「SDGsを意識した教育活動の充実」を掲げ、「これからの社会の在り方と自分」などをテーマに、ESDの実施を学校全体で組織的に取り組みたい。

## 防災対策について



はやし しょうこ  
**林 昌子**  
 議員

**質問** 「避難情報に関するガイドライン」が改定され、村のホームページにも「水害・土砂災害の防災情報の伝え方が変わりました。」と掲載された。具体的にどのようなように変わったのかを伺う。

①警戒レベルごとの指示及び住民の行動は。

②各災害の対象地域住民に対する周知方法は。

③マイ・タイムライン（一人一人の防災行動計画）の推進は。

④避難所の企業連携は。

**答弁**（経済建設部長）

①警戒レベル4の「避難勧告」が廃止。警戒レベル3「高齢者等避難」で高齢者や障

がいのある方など、避難に時間がかかる方々について危険な場所から避難する事を求める。

②屋外防災行政無線（13か所）中心に周知。本年2か所増設を予定。NHKデータ放送でテレビ画面に表示。状況に応じて広報車や個別訪問で周知。

③ホームページや広報みほで周知。美浦大学等での防災講習。障がい者の方は避難行動要支援者避難支援計画に基づき個別計画を作成。外国人の方は国際交流協会等連携し支援。

④避難スペース確保での連携はされていない。

**答弁**（村長）鬼怒川や那珂川氾濫の自然災害や東海原発も含めて避難準備は課題。住民の安心安全を守る為、避難できる範囲を築き上げる。